

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472800265
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホーム おおね
訪問調査日	平成21年8月25日
評価確定日	平成21年10月15日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月19日

【評価実施概要】

事業所番号	1472800265		
法人名	医療法人 厚仁会		
事業所名	グループホーム おおね		
所在地 (電話番号)	神奈川県秦野市南矢名2-12-1 (電話) 0463-77-1105		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年8月25日	評価確定日	平成21年10月15日

【情報提供票より】(21年7月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年3月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 8.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 6階建ての2階部分		
------	-------------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費は実費
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低 75 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	秦野厚生病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、小田急線東海大学前駅から徒歩約5分ほどの商店街にほど近い住宅地の一角に位置している。同法人の経営する老健の6階建てのビルの2階に当ホームが開設されている。
利用者と職員は、近くのスーパーマーケット、八百屋に食材を一緒に買いに出かけ、食事を作っている。
職員のレベルアップとサ - ビスの質の向上のため年間の教育スケジュールを定め、内部研修や外部研修、同業者職員との交換研修などに積極的に参加している。
毎月1回全利用者が協力医である同法人の病院で内科を受診している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を受けて内容をカンファレンス時に報告し、職員間で改善に向けて話し合い、質の向上に努めている。年間の研修計画を作成し、内部研修は職員が参加しやすいように開始時間を17時に変更した。重度化や終末期に向けた方針の共有の項目については継続課題となっている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の意義やねらいを職員に説明し、自己評価票のコピーを全職員に配布し、全員で自己評価に取り組んでいる。管理者が職員の意見をまとめて自己評価票を作成した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>年4回運営推進会議を開催している。前回は5月28日に行われた。メンバーは市職員、地域包括支援センター職員、地域代表者、利用者、家族、法人職員である。ホームから活動報告、外部評価の結果報告をし、参加者から質問や意見などを聞いて質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議で家族から意見や要望を出してもらい話し合っている。出された意見は運営に活かしている。1階玄関に法人苦情担当者、外部苦情相談窓口が掲示されている。また意見箱が設置されており、意見を投書出来るようになっている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には法人全体で加入している。自治会の防災訓練に利用者も参加したり、夏祭り、保健福祉フェスティバル、公民館祭りなどに出かけている。地域の方と挨拶を交わしており、利用者が散歩の途中で地域住民の家に立ち寄り、休ませてもらうこともある。誕生会などの折に不定期で三味線、日本舞踊などのボランティアが訪れている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初より独自の理念として「高齢者が地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かで明るく健やかに暮らせること」を掲げて地域との交流を大切にする理念を創り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時、職員間の話し合いで理念を共有している。入職時に職員は、理念について説明を受けている。職員は理念が記載されている名札を身につけ理念を意識している。出来るだけ外に出かけて外部の方と触れあったり、近所の方との関係を深めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には法人全体で加入している。自治会の防災訓練に利用者と参加したり、夏祭り、保健福祉フェスティバル、公民館祭りなどに出かけている。地域の方と挨拶を交わし、利用者が散歩の途中で地域住民の家に立ち寄り、休ませてもらうこともある。誕生会などの折に不定期で三味線、日本舞踊などのボランティアが訪れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の意義やねらいを職員に説明している。自己評価票のコピーを全職員に配布し、全員で自己評価に取り組み、管理者が職員の意見をまとめた。前回の外部評価の結果を受けて内容をカンファレンス時に報告し、職員間で改善に向けて話し合い、質の向上に努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回運営推進会議を開催している。前回は5月28日に行われた。メンバーは市職員、地域包括支援センター職員、地域代表者、利用者、家族、法人職員である。ホームから活動報告、外部評価の結果報告をし、参加者から質問や意見などを聞いて質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	秦野市介護保険課担当窓口の職員に毎月入居者の状況などを報告している。市主催の地域密着型サービスを提供する事業所の会に参加して交流、情報の交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に職員は利用者の様子を伝えている。年4回、ホーム便り「紙ふうせん」で暮らしぶりなどを報告している。また請求書を送付する時に個別に近況を報告している。状態に変化があった時は電話をしている。預かり金は個別の小遣い帳を作成して毎月の残高を記載し、家族から確認のサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族から意見や要望を出してもらい、それらについて話し合っている。出された意見は運営に活かしている。1階玄関に法人苦情担当者、外部苦情相談窓口が掲示されている。また意見箱が設置されており、意見を投書出来るようになっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所時からの職員も勤務しており、利用者を継続的に支援している。職員が代わる時は引継ぎ期間を3ヶ月程度取っている。新しい職員はベテランの職員から利用者の特徴などを聞いてから接している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修予定表があり、全職員が研修に参加する機会がある。月1回内部研修(院内研修)があり、参加を希望する職員は全員参加が出来る。外部研修には職員の段階に応じて参加している。研修参加者は研修報告書を作成し、回覧して職員間で内容を共有している。同業者職員との交換研修には年1~2回参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会、県央地区グループホーム協議会のネットワークに加入して会に参加し、そのなかで交換研修、意見交換などをして質の向上に取り組んでいる。秦野市主催の地域密着型サービスを提供している事業所の会にも参加して質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の希望があった場合は、本人、家族にホームの見学をしてもらっている。希望があれば、体験入居を勧めてお茶を飲んだり、食事を一緒にしてもらっている。宿泊も出来る。利用開始後すぐの期間は利用者の話を聞いて理解に努めている。(この2年間に新規入居者はない。)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と梅干し、らっきょう漬け、干し柿作りなどを楽しんでいる。利用者から料理の味付け、漬物の作り方を教えてもらうこともある。毎日の日課である歩行運動をするときなど何気ない時に職員は、利用者からねぎらいの言葉をかけてもらっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいか直接本人から聞いてそのつど対応している。意思の確認が困難な方には、日々の観察や家族からの情報を基に意思を汲み取って対応している。踊りが好きな方は、誕生会に踊りのボランティアに来てもらい鑑賞したり、庭いじりが好きな方には朝顔の種をまき育てるなど園芸を楽しんでもらっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス会議、日々の申し送りなどを通して利用者の個々の状況、状態を検討している。また、家族の来訪時に意見や要望を聞き、それを反映させて利用者本位の介護計画を作成している。必要な方には医師、看護師から助言をもらっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しは1年に1回である。状況に変化があった場合はそのつど見直しを行っている。介護計画の見直し時にはアセスメント表も確認して、変化があれば新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者は毎月1回、隣接する協力医療機関において内科の定期健診を受けている。同法人の他事業所(病院、老人保健施設、居宅介護支援事業所、グループホーム)と連携している。利用者が外に出ってしまった場合に、建物内の他の事業所から連絡をしてもらえる体制がある。法人全体で避難訓練を行っており、災害時には協力が得られる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、これまでのかかりつけ医、歯科医など希望する医療機関を受診できる。受診する際は家族が利用者同行している。受診結果は家族から報告を受けて内容を職員間で共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では看取りを行っていない。退去の目安は、「食事をする意欲がなくなった時点」である。状態の変化があった場合は主治医が家族に説明している。重度化した場合の対応について、家族と早い段階からの繰り返しの話し合いは行っていない。		重度化や終末期の対応を行っていない場合でも、急変時などに備えて、早い段階から繰り返し今後の方針について話し合い、方針を統一する事が望まれる。指針などを作成するとさらによい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で言葉かけには職員同士で十分注意をしている。申し送りやプライバシーに関わる話は、個人名を出さず、部屋番号でしている。排泄時は居室のトイレを利用し、利用者の人格やプライドに配慮している。個人情報は目に触れないように掛け金のついた机に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のお茶の時間に利用者からその日の希望を聞き、楽しく過ごせるように支援している。朝寝をしたい利用者などにも柔軟に対応している。利用者は習字、切り絵、手縫い雑巾、太極拳体操、手作り品(白菜漬け、梅干し、干し柿、シュウマイ)などを希望に合わせて楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立について、利用者の希望を聞いて一緒に買い物に出かけることもある。食器にも気をくばり、彩り良くおいしい食事であった。職員も一緒に和やかに食事をしていた。 野菜を切るなどの調理や盛り付け、下膳などの後片付けを職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月、水、金曜日の10:00～16:00の時間帯の中で、入浴する時間や順番は利用者を選んでもらっている。希望があれば他の日でも入浴できるように配慮している。リフト浴の設備があり、1名の方が利用している。同性による入浴支援が行われている。茶殻を浴槽に入れ、お茶の香りを楽しみながら入浴をする時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴に応じて、料理、手芸、縫い物、書道などを支援している。訪問時には、利用者が職員とキュウリを切ったり、シメジの下ごしらえ、配膳などを行っており、職員は「ありがとう」と利用者に向けていた。廊下に利用者の書いた習字が掲示されていた。買い物の時に利用者が好きなお菓子を選んで買うこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週2回～3回ぐらい散歩に出かけたり、気候や天気が良いときは毎日、食材を買いに出かけている。歩行が困難な方は車椅子で出かけている。遠出をするときは、車椅子に対応できる車を法人施設で借りている。花見、紅葉狩り、お祭りなどに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(8:30～17:00)は玄関に鍵を掛けていない。利用者の外出の癖を職員は把握し、見守っている。利用者が他のフロアに行った場合は、建物内の他の事業所から連絡をしてもらえ体制が出来ている		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルがあり、年2回法人全体で利用者と避難訓練を行っている。スプリンクラーがあり、地域の防災訓練には昨年より職員、利用者が参加しているが地域との協力体制はまだ出来ていない。非常用食料、飲料水は隣接した法人病院施設に備えている。ヘルメットなど備品はホームに保管している。		災害時は法人と連携して避難する体制になっているが、さらに地域の協力を得るための働きかけをしていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録している。持病があるなど注意が必要な方については、ご飯の量を計るなどして摂取カロリーに配慮し、体調に合わせて支援している。毎日食事、おやつのカロリーを計算して業務日誌に記録している。献立は法人病院の栄養士に見てもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには観葉植物、鉢植え、切花などを飾り、季節が感じられ、和めるようになっている。リビングや廊下の空間には利用者の作品(習字、切り絵)、行事、日常のスナップ写真や絵を飾り、その写真などを見ながら利用者と会話をする事もある。エレベーター前にはソファが置かれ、一人になったり、気の合った利用者同士が集える空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、エアコン、換気扇、スプリンクラー、煙感知器、クローゼット、トイレ、ミニキッチン、ベット、電話、椅子が設置され、窓の内側は障子になっている。利用者は馴染みのテーブル、家族の写真、草花、姿見、ポット、人形、絵、テレビ、時計などを持ち込み居心地よく過ごせるようになっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム おおね
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	神奈川県秦野市南矢名2-12-1
記入者名 (管理者)	鈴木 貴能
記入日	平成 21年 8月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者が地域社会の中で自立とふれあいを大切に豊かで明るく健やかに暮らせるよう地域との交流を大切に、努めている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時や職員間の話し合いの中で管理者と職員は理念を共有している。ホーム内のところどころに理念を掲出している。職員は首に下げる名札の裏面に理念を印刷したものを常に携帯して意識を高めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方には入所の際説明し理解を得ている。また、地域の方には推進会議やボランティアで来所されたときなどに会話の中でお話させていただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の散歩の時や買物に行く時など地域の方々と近所の公園や道中で挨拶や会話など気軽に声を掛け合っている。公園で会う方に声を掛けてグループホームに立ち寄り頂いたり、一緒にお茶を飲まれたりもする。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元商店会の夏祭りや公民館祭り・大学祭や保健福祉フェスティバルなどに参加したり、利用者の誕生会などの際に地元のボランティアの方々に日本舞踊を披露してもらったりして地域の人々との交流を図っている。また、自治会には法人施設全体で加入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近所の公園でお会いする方に声を掛けてホーム内にお招きしたり、市主催の保健福祉フェスティバルに参加している。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価に取り組み、それぞれの意見を出し合い、それを管理者がまとめて自己評価票を完成させた。昨年の評価結果を検討し、改善点を会議で話し合い、出来るだけ理念に近づけるよう日々取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は平成20年度は4回実施し、今年度は5月に実施している。地域の方々の意見や情報、家族の方々の要望を聞いて職員同士話し合い情報を共有し、利用者や家族が安心できるサービスを心がけている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者には毎月入居者の状況や待機者状況を報告している。今年度から市の呼びかけで市内の地域密着サービスを提供する事業所が集まり情報交換や交流を図っている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営推進会議にて地域支援センターの職員から成年後見人制度について話してもらったり、市の講習会に参加し必要に応じて支援できる体制をとっている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>県や市の研修に参加したり、法人内の勉強会に参加したり一人一人が学んでいる。利用者に対する声かけや行動などに虐待がないか日々注意を払い、必要時、その都度職員同士で話し合い、虐待防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族や本人が納得されるまで細かい説明を行い、ホーム内を見学してもらったり、料理をしているところなど日常生活を見て頂き、安心してホームでの生活を送れるように配慮している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者にも運営推進会議に出席していただき、発言できる機会を確保している。また、法人内職員が訪問し利用者とは話し情報を共有し、日々の運営に反映させている。老健1階に意見箱を設置している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりや健康状態は来訪時、管理者や職員よりお話をもらっている。必要時、電話にて連絡・報告行っている。また、毎月キーパーソンに手紙を出し、日々の様子や健康状態などを報告している。金銭管理は毎月末小遣い帳を締め切り、家族来所時などサインをもらっている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて発言できる機会を確保している。また、法人内老健1階と病院1階に意見箱を設置したり、苦情担当者を老健1階に掲示し、対応している。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見や提案をまず管理者が聞き、職員間で話し合い、まとめた内容を病院事務長や老健副施設長に毎月1回のカンファレンスや必要時に提案・相談し施設の運営に反映している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時・必要時に職員確保のための対応をホーム内で話し合い、職員間で周知している。ホーム内職員が対応できない時は法人内職員が対応する体制が整っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者が出た時は速やかに人員を募集し、見習い期間を設け業務の引き継ぎを行い、利用者・家族が安心して馴染める様に配慮している。複数の職員が一度に変わることをないように他部署との異動の調整など行う。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内にて毎月第一火曜日夕方5時より1時間くらい内部の医師・看護師・職員が講師になり勉強会を行っており、それに参加している。職員の段階に応じてグループホーム連絡協議会の相互研修や市の外部研修など受講している。受講後は研修報告書を作成して回覧し、他の職員も内容を共有している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県央地区のグループホーム協議会に参加したり、市内のグループホームとの相互研修など行い、職員間の意見交換や情報を共有することで他施設の良い点を取り入れてサービスの質の向上に役立っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一年に一回職員健康診断の際、ストレス調査を行い、度合いに応じて対処法を回答してくれたり、産業医にメンタルヘルスの相談が出来る。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は給与水準の改善や、職員が働きやすい環境をつくるための職員配置、研修への参加など働きやすい職場作りを行えるように配慮している。</p>	
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人や家族からの訴えに対し、管理者を中心に職員が話し合い要望に応えられるよう努力している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人や家族からの訴えに対し納得して頂けるまで何度でも話し合う機会を持ち、安心して利用して頂けるように努力している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム単独では行っていないが様々な要望に応えられるように法人全体で病院・老人保健施設と連携している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には本人及び家族にホームを見学してもらい、雰囲気や掴んでもらうようにしている。必要に応じてお茶や食事など体験入所を勧め、職員や他の利用者として共有する時間をつくり、ホームの雰囲気を知って頂く工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の個々の状態を把握して、本人のペースに合わせて支援している。日々の生活の中で裁縫(雑巾作り)、編み物、食事の献立、下拵え、配膳、下膳など得意分野で力を発揮してもらい、職員は料理の味付けや漬物など利用者から教えてもらっている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常の生活状態を家族にお話し、本人の状況や課題を共有し、家族と協力して本人がその人らしく生活できるように支援している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の入所前からの関係に配慮しつつ、本人の現状をお話することで家族とは違った視点から見ることもあり、より良い関係を築けるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前からの馴染みの関係を途切れさせないように来所時の対応や届け物があった時には家族や送り主に連絡をし、関係が途切れないように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がかかわりやすいように席を移動したり、職員が間に入って利用者同士の交流を促し、互いの関係を深め、支えあう関係を作り出せるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は契約終了後継続的なお付き合いをしている方はいない。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を伝えることが出来る方からはその都度対応している。自分の意向を伝えることが困難な方は家族からの情報や本人の表情、行動など日々の状態から職員間で話し合い対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話を聞き、趣味や嗜好、生活歴などの情報を職員間で共有し、把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送り・記録の中で体調や食事摂取状況、当日の状態を一人一人、朝夕の申し送りにて報告・連絡を行い、利用者の現状の把握と共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスや日々の申し送りで利用者個々の状態を話し合い、家族や本人、必要に応じて医師や看護師などの意見を反映した介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化があった時には職員が家族、本人、医師、看護師などと話し合い、新しい介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は時間帯や内容に応じて色分けをしている。朝夕の申し送りでは日々の様子などを共有し、対応が必要な時はその都度話し合い、計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の老健や病院の活用により様々な要望に応えられる協力体制がある。家族の状況等によっては協力病院以外の受診も支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生会のときに日本舞踊や演奏を披露して下さったり、歌を歌って下さったりと協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族や本人の意向があればそのように支援できる体制にはあるが、現在は事例はない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	家族や本人の意向があればそのように支援できる体制にはあるが、現在は事例はない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人病院の主治医以外にも診療科目により家族の選んだ病院を受診しており、必要時、主治医より紹介状を出してもらい、適切な医療を受けられるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内の医師に受診や認知症に関する相談などの対応ができる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	外来受診時の担当看護師や法人内の病棟看護師等に相談できる体制がある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には職員がお見舞いに行ったりして利用者や家族が安心して過ごせるよう配慮する。また、家族や病院関係者と連絡を取り早期退院に向け連携し、退院後のケアに関して職員間で情報を共有し退院後の生活に支障が無いように努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とは個別に何度か話し合う機会を持っている。職員とは毎月のカンファレンスなどで話し合い、方針を共有している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまでの事例ではそのように対応してきた。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換や話し合いを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけなど失礼のないよう常に職員間で注意している。朝夕の申し送り時や利用者のプライバシーに関わるような話を行う時は個人名を使わずに部屋番号を使用している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の会話や行動の中から利用者の希望を表しやすいように内容を整理し、自己決定をしやすいよう働きかけ本人が納得して生活を送れるように支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴等一応曜日ごとのスケジュールは決まっているが、一人一人の状態に合わせ、本人のやりたいことを職員と話し合いながらどのように過ごしたいかを自分の意思で行動できるように支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入所前から利用していた美容室に家族と出かけたりホームの近所の美容室を定期的にご利用したり外出を困難な方にはホームに出張してもらっている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日、当日の食材を基に利用者から調理方法など希望を聞く。下準備や盛り付け、片付けなどそれぞれ得意分野を一緒にやってもらう。職員も同じテーブルと一緒に食事・片付けを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつは職員と買いに行ったりしている。カロリー制限されている方もいるので特別な日などを除いて数値の範囲内で提供している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンや排泄前の固有の行動を把握し、出来るだけトイレで排泄をして頂けるように支援している。トイレ誘導時は周囲に気づかれないように言葉掛けを行い、失敗したときは本人が傷つかないように注意している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間帯は決まっているが、一日の中で入りたい時間を選んで頂く。一人一人ゆっくり自分のペースで入浴できるよう配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日々の身体状況や前日の睡眠状態を考慮し、個々に休息を取り入れるよう努めている。利用者本来の生活リズムを整えられるように家族から話を聞いたり医師に相談できる体制がある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴から料理、手芸、縫い物、書道等それぞれ昔から興味のある得意なことを行えるように、日々の体調などを考慮しながらやりたいときに出来るよう、声掛け、準備している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が家族よりお金を預かり管理しているが、出来る方には家族と相談の上、利用者ご自身で所持し、職員が同行して買い物をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が許す限り、個々の体調を見ながら職員が同行して散歩や買い物、車で出掛けたりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々に対応することは難しいが、季節に応じて初詣や花見、紅葉狩り、お祭りなど利用者の希望に沿ったところに出掛けられる機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話があり、誕生祝いや贈り物、手紙を頂いた時などお礼の電話をかけるようにしている。その時、電話の相手に現状を伝えている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された際は自室に案内し、ゆっくりくつろいで会話ができるような環境づくりを心掛けている。また、デイルームでも他の利用者を交えて一緒に会話できている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束に関するポスターを掲示したり、法人内の研修に参加したりして職員全員が周知している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間から早朝までは施錠している。利用者の帰宅願望が出ているときは職員間で声かけし、エレベーター方向の見守り行う。また、買い物や職員が同行して外出することにより気分転換を図るなどしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	食堂以外などの目の届きにくいところにいる時は、職員同士声を掛け合いながら所在や様子の確認をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品については職員の管理下にあり、施錠している物品もある。個室については一人一人の状態に応じて対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒が予想される方の所在確認や歩行時の付き添いを行い、事故防止に取り組んでいるが、日常の事故につながりかねない小さな事案など共有できていない点もある。薬類はほとんどが職員が管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルは作成してある。救急法など法人内の研修に参加しているが、定期的な訓練は行えていない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や非常用食料や備品の準備など法人との協力体制がある。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や個々に起こりうるリスクについて面会時などに説明している。状態の変化があった時には必要に応じて電話などで連絡し話し合い情報の共有を図っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴前にバイタルチェック(体温、血圧、脈拍)、毎週土曜日の体重測定を行い、観察している。変化や異変があるときは申し送りノートやケース記録に記録し職員に周知し、受診等も含め対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイルし、保管、確認している。症状の変化については観察、記録してその都度かかりつけ医に報告、相談しその内容を職員間に申し送りノートなどで周知している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の食事の中で野菜や海藻類を多く摂取することを心掛けている。水分を摂りたがらない利用者には本人の嗜好に合わせて対応している。日中は体操や散歩など日常生活で身体を動かすよう働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、うがいを行っている。義歯を使用されている利用者は夕食後、ポリデントにて洗浄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を記録している。水分量が少ない時には利用者の嗜好に合った飲み物等で補っている。糖尿病の利用者の摂取カロリーに注意し、1日1,300kcal内で提供しており、調理方法も利用者の好みや状態に合わせて行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ等は家族の希望があれば法人内の病院にて利用者と職員が接種できる。ノロウイルスや疥癬は法人内のマニュアルに沿って対応する。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器は食器洗い洗浄機で洗い、まな板やスポンジ、包丁等は熱湯消毒や日光に当てている。食材は毎日買いに行くようにして賞味期限の管理は職員間で声かけしながら管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはソファが置いてあり時折利用者同士でゆっくりと会話している場になっている。花や植木鉢を飾ったり、落ち着いた雰囲気作りを心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には利用者の方の日々の生活の様子がわかるようにイラストや写真を掲示し自分たちの生活を思い出したり、会話の機会を持っている。また、季節の飾りつけ(雛人形、七夕、お正月等)を行い季節感を取り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関にはソファや椅子が置いてあり、時折利用者同士や職員と話をしたり、一人でもの思いにふけったり、うたた寝したりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や身の周りのもの、家族の写真や思いでの品など持ち込んで頂き、利用者が安心して生活できるように努めている。散歩の途中で積んできた草花等を各居室に小さな花器に入れて飾っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温の調整は温度計にて室内温度と外気温を考慮しながら適宜窓の開閉や空調等で対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー、各居室に洗面所、トイレ、窓、冷暖房、換気扇設置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口にはそれぞれの表札の他、部屋を間違えやすい利用者の部屋には、個別に表札を作ったりして混乱を防ぐ工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節の花々を種から植え、成長する過程や花が咲くところまで毎日の歩行の時間や散歩の時間に皆で見たり様子を観察したりして楽しんでいる。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活の中で一人ひとりが自分らしく、穏やかに生活が出来ていつも笑顔でいられるような環境を作り出せるように職員全員で取り組んでいる。利用者の方々のこれまでの生き方を尊重し、それぞれが得意としてきた事を継続して行っていけるように生活の場に取り入れ、安心して暮らしていける場を作り出している。